

みんなの広場

国分川上流の危岩の地に、石灰工業が開発されてから、国分川の

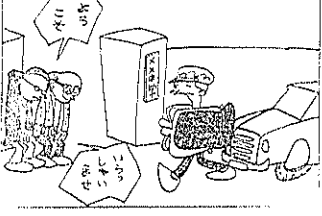
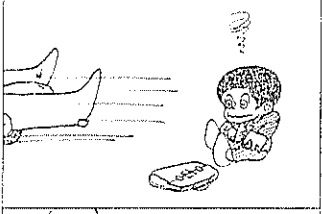
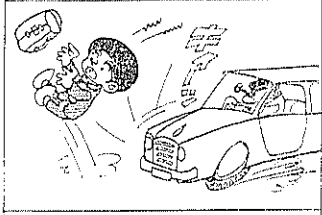
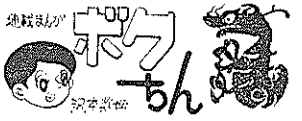
澄んだ美しい流れは、すっかり、灰色に濁った流れに変わってしまった。

川の国分

久礼田 岡崎ひとし

濁りを悲しむ

農家のおばさん達のたのしみ場所だったせんだく場も、今は、さびれゆく一方。みがかれたい心の如き光沢を放っていませんたたく物



無料 人権相談所
毎月20日・中町公民館

有線コース
電話は短かく
要領よく
あいさつよりも
まず用件

一の置石も、灰色の泥をかぶってみることがない。岸には、いつも釣人の姿をみかけない日はなかったが、灰色の水が流れただけではその姿もみかけなくなってしまう。夏になると、いたるところの川瀬で、子供達が水あそびにはしやぐたのしい眺めも目にする事が出来なくなりました。泳ぎ場を奪ばれた子供達は何と想っているのだろうか。野良仕事のヤツ時には、堤にあがってハエの威勢の

いい泳ぎをみながら癒いのひとときをたのしむことも、釣好きの出稼の仲間、国分川の流れの美しさや川魚の移動を、手紙に書いて知らせてやることも出来なくなりました。このまま国分川に灰色の水が流れつづけるならば、いつかは美しい里人の心も灰色に染まってしまうのではなからうか。工業の発展は結構であるが、そのために美しいものが失われていくのはかなしい。

ときは明治、のちの海軍大将山本権兵衛がドイツに行ったとき、ドイツのある高官から何か見たいものは何かと言われた。山本権兵衛は、ドイツの工場なら何でも見たいビール工場でもよいと心で思ったが、見くらげられるのがいや



爪先の火薬

でも見たくないドイツが日本に見せるものはないかと大きくでたとするとドイツの高官はそれではドイツ第一、いや世界第一のクリップ兵器工場へ連れてゆきしかも最強力の火薬をじまんして見せてくれた。山本権兵衛は大して感心もしないふりをして手でなぞ廻して見学が終わり、工場を出た。宿舎に帰ると急いで白紙の上に手をかきして、爪の間に僅かにつめて帰った火薬をほじくり出して、大切に日本に持ち帰り、この火薬を研究の材料とした。

句集 小田村

若 草 会

寒海へ午前の光り黒く射す
ねんごろに親指く親子へ鳴る午笛
草餅の匂ひはのかに母在りて
寒月芽えつめたき肌テレビ塔
猫柳一条の陽にふれ光る
流れ藻にたわむれ遊ぶやよい鮎
土しむ手水仙を剪るおんなの刻
繪抱く山田陽を溜め畔飼育つ

岡田 昌子
楠瀬 八重
楠瀬 万葉
岡田 寿子
福井 澄子
楠瀬 秀子
楠瀬 敦子

墓石のすみれは一つ残しけり
よく透る春の受音機に任地知る
つばくろの声の軽さを密に聞く
松の花実意うつつつ山奥く歩
れんげ田の少女の口笛蝶舞わせ
パーマ伸び売れぬかんらんひたすら青
苗代や仁王の如き足の跡

ふみ 愛
ますき 美枝
博子
政子
篤し

原稿募集

短歌、俳句、詩、コント、あなたのご意見など、お寄せ下さい。投稿は六百字以内。



▽いつも遅れ勝ちになる広報でもこれほどともなるとは、なんとしても申訳けないことです。
▽職員の間、庁舎の改修などと、身辺のあわただしさに、落着いた仕事にならなかったのもその一因です。
▽村山福祉所長のリレー随想は次号へ。